



大阪の顔・グリコ刷新！ その陰で…。

今や大阪の観光名所となっている「道頓堀のグリコの電照看板」。テレビドラマの大阪でのワンシーンにも欠かさずこれがバックとなりますね。さてこのグリコの看板は昭和10年から続くこと79年間、今回の改修で6代目となりました。約14万個のLEDを使用！背景には大阪城と通天閣に固定していた先代とは異なり、コンピューター制御で富士山やロンドンの大時計「ビッグベン」なども自在に流せるようになり、最新型の電照広告となりました。



さて、このグリコ新電照看板ですが、その陰で深刻だったのが、ネオン管職人の減少だったそうです。先日TVで道頓堀、通天閣の8割のネオン管を手がけている職人さんが「大阪のネオンを守っていく」と語っていた矢先に、LEDにかえられてしまうとは…。やはり時代には逆らえないのでしょうか。ネオン管職人だけでなく、様々な分野の職人と言われる人たちの減少問題はかなり深刻になってきているようです。

昆布屋さんの身近なところ言えば、とろろ鋤き職人。刃物で有名な堺はおぼろ・とろろなどの昆布加工が歴史的に盛んで、職人が300人以上もいたそうですが、今では20人もおりません。ベテランの職人が次々に隠居してゆくと、技術伝承が難しくなり、やがては『言い伝え』となってゆくわけです。敦賀もとろろ職人さんは多かったのですが、今や中国に作業場を移して技術の伝承を続けているのです。



しかし一方では、日本文化や伝統技術というのは海外ではかなりリスペクトされていて、うどん職人になるため、日本酒の醸造職人になるために日本に移り住む外国人が増えています。ランドセルがフランスを始め海外でファッションの一環として流行るくらいですから、日本文化は海外に対して測りしれない影響力を持っています。

日本人が伝承しなくなった技を、外国人が国内外で受け継いでゆく…。別の人たちがその価値を認めて伝承してくれるということは素晴らしいことです。でも、一抹の寂しさは残ります…。



社内一番自慢!

人間動物園・吉本興業で芸人のマネージャーをやっていた営業・吉田、4月に入社しました。芸人たちにいじられることはお得意の、我慢強いナイスガイ。話芸も達人ですが、松前屋での社内一番自慢はなに???



経験豊富なナイスガイの一番自慢は?

初めまして。営業の吉田拓矢と申します。吉本にいただけではなく、素敵なお店紹介雑誌『あまから手帳』の営業でもありましたが、縁あって嫁は現役のパティシエです。

さて私の一番自慢は「頭の大きさ」! 帽子のサイズは60cmでぴったりです。加えて髪の毛はくせ毛・剛毛で、ワックスをつけていない時は往年の具志堅用高をほうふつとさせる爆発っぷりです。さらには、身長も低いため、奇跡の5頭身でございます。

スタイルの良い現代日本において、伝統的な日本人体型を守り続ける私をどうぞよろしくお願ひいたします。

健康法師の独り言 パート55

さて、今回からは下半身のストレッチに移りましょう。

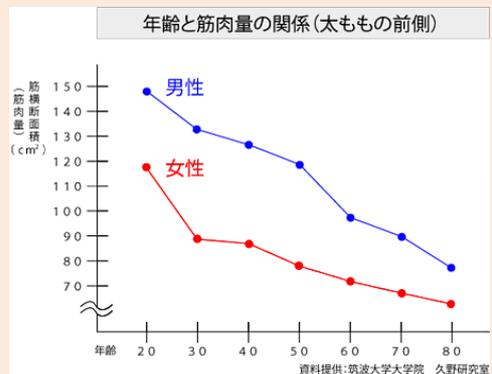
50歳にもなると、普通に歩いていても躓いたりして、そこに何があつたのかと振り返ることがありますね。脚が全く上がっていないわけです。股関節の柔軟性や太ももの筋肉が弱っていたり固まっていたり…。よほど熱心に歩いている人でなければ、どんどんと脚の筋肉は弱まってきます。図をご参照ください。腕よりも脚の筋肉の方の衰えが早く、めっきりと衰えてゆくものでですね。



では足が上がりやすく、歩きやすくなるストレッチ…。

- ①まず両膝でたつてから ②右足を前に出します。
- ③左のかかとを上げて、**左足の指で支えます。**
- ④あまり広くスタンスをとる必要ありませんが、バランスが悪ければ片腕で何かを持ちましょう。
- ⑤背筋を垂直に立てて、前かがみにならないように、上半身はできるだけ**後方へ!** ↑ **ポイント**
- ⑥上下にゆっさゆっさ20回ほど揺れてみます。
- 今度は ⑦足を逆にして、ゆっさゆっさ。

股関節を刺激し、太ももの裏側と前側の筋を伸ばして、ことですが、毎朝一番に少しずつ繰り返しましょう。なって歩みも早くなりましょう。



脚が上がりやすくなります。歩く意欲が違ってくるし、歩幅が大きくなる。

編集後記

今回の通信はいかがでしたでしょうか?今年、最後の通信となりました。久しぶりの「社内一番自慢」のコーナーで取り上げられ吉田さんは「寿入社」を果たし、入社早々新婚旅行に行った伝説の男!羨ましい限りです。年末の大掃除やお正月の準備など、色々とお忙しい時期ですが、体調管理に十分気を付けて、元気に新年をお迎えください!良いお年を〜 松村

